

4

水上からの中央公会堂



A.c



メモ
 大阪市中央公会堂は、鉄骨れんが造り(一部鉄筋コンクリート造り)地上3階、地下2階。1912年の設計コンペで最優秀に選ばれた岡田信一郎の原案に基づき、辰野金吾らが設計した。1161人収容の大集会室(ホール)、コンサートやパーティーを開ける中・小集会室、会議室、レストランなどがある。02年、重要文化財に指定。

ゆ堂筋のカタリ

昔から中之島公会堂として親しまれてきた大阪市中
 央公会堂は、大正7(1918)年、株式仲買人の岩本栄之助の寄付によって建築された。ネオ・ルネサンス様式を基調に、バロック風の壮大さとアーチ型の屋根が、いかにも大正時代を象徴しているように思われる。商業的発想から、コンテナポラーリーな建築に建て替えることに熱心な大阪商人気質とは対照的に、古きを温める心意気を感じられるこの公会堂のリニューアルを、2002年に完成させたことは時代の流れだろう。

商人気質と対照的な温もり

うか。うれしい限りである。観るものをホッとさせるものがあるからだろうか、いろいろな角度から絵筆を走らせている日曜画家で、界限はいっぱいだ。人間って新しいものに飛びつき、一方でいつも変わらぬ古きものに安らぎと和みを求めている、せいたくな生き物なのだとつくづく思う。私もそんな生き物の一員として、絵筆ならぬペンを走らせた。今回は水上船から狙ってみたが、見上げるアングルで描きはじめる、おのずから尊敬の念が湧いてきた。その尊敬は、どこに向けられていたのだろうか。90年の長きにわたり大阪市民の文化向上の舞台になったこと、今日の大阪を見込んで私財を投げ打った寄付者・岩本栄之助の奉仕の精神ではなかったかなと思う。

21世紀は、市民主導の社会と言われている。一方、ボランティア活動に象徴されるような奉仕的貢献の社会的要請もある。これまでがあまりに経済優先で、あまりに利己的行動が多かったためであろうか。

これからは、市民の小さな善意と意志で、多くの市民が一緒に力を合わせてリーダーシップを発揮し、有形、無形の公会堂を作りたいものである。それは、自治体と企業との関係プレーを意味するのかもしれない。